

Risk factors of fecal colonization with extended-spectrum β -lactamase-producing Enterobacteriaceae in special nursing homes in Japan

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 久美 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001947 |

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1778 号

The relationship between fecal colonization with extended-spectrum β -lactamase-producing *Enterobacteriaceae* and incontinence care in special nursing home residents

(特別養護老人ホーム入所者における基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ産生腸内細菌の便中保菌と失禁ケアとの関連)

横山 久美 (よこやま くみ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、特別養護老人ホーム(特養)の入所者における基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ産生腸内細菌(Extended-spectrum β -lactamase-producing *Enterobacteriaceae*: ESBL-E)の保菌状況の調査と、特養で行われている排泄介護の方法に注目して ESBL-E 保菌リスク要因を検討したものである。

特養はその構造上、多床室を基本とし集団生活が中心となる従来型施設と、個室を基本とする入所者 9 名程度で 1 ユニットの構成するユニット型施設に大別される。特養は介護保険法による職員の配置基準が決まっているものの、介護方法に関しては主に従来型施設では集団に対する施設のタイムスケジュールに基づくケア、ユニット型施設では入所者個々の生活リズムに合わせたケアが実施されている。この点を踏まえて、本論文では便失禁を有する入所者の排泄介護に関する方法や物品の使用状況と ESBL-E 保菌との関連性について調査した結果、ユニット型施設の入所者に比べて従来型施設の入所者に ESBL-E の保菌者が多かったことを明らかにした。また、ESBL-E の保菌と排泄介護で使用されているオムツ交換用のカートの使用、おむつ交換時のエプロンの着用と手指消毒剤の携帯との関連性についても明らかにした。

既存の研究において ESBL-E 保菌リスク要因に関する報告では、対象者の個人要因によるものがほとんどであったが、施設の特徴や排泄介護の方法に注目して個人要因のみならず施設要因についても明らかにしたことは、高齢者介護における感染制御の具体的方略を検討する一助として意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。